



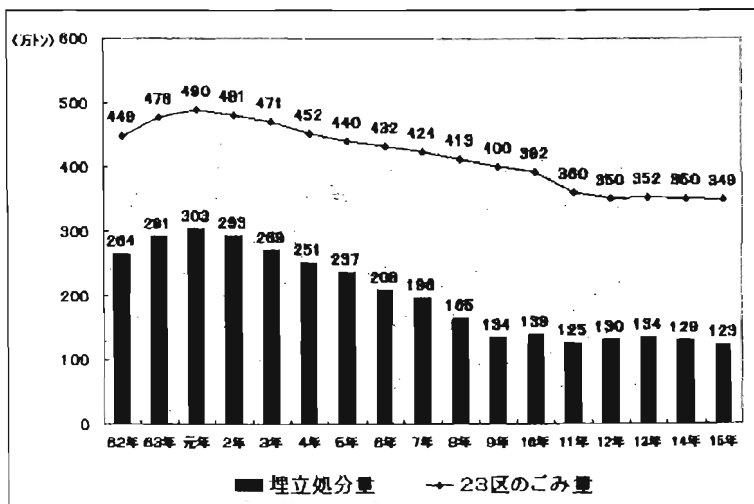
だれの中にも、地球を守る“宇宙”がある

「こんな勢いで、環境が悪化していくのでは、到底、地球の温暖化を防ぐことなんて出来ない」「人間は欲望を抑えられないから、文明と環境は対立し、自ら破滅していくに違いない」など、人類の行方に、ブラックに近いグレーの展望が語られることも少なくありません。

本当に、数年前の子どもたちへのアンケートでも、自分たちの未来に色を付けるとしたら、という質問に日本の子どもで一番多かったのは、グレーだったというのです。子どもたちが、これからそう思いつつ過ごす人生は、自分の生きているうちは、とりあえず大丈夫という安心感です。ごす「取りあえずの幸せ」を望むしかありません。

確かに人間は、科学と経済をますます発展させ、開発と経済発展によって生活を便利で快適で豊かにしました。その結果、負の遺産も目の当たりにしました。公害・大気汚染・水質汚染・森林伐採・エルニーニョ現象・異常気象・生態系の破壊・地球温暖化へと進んでいます。このままでは、子どもたちがいうグレーの未来は、限りなく、破滅的時代へと進んでいくのではと考えてしまうのも当然です。たった、この100年の年月で、地球の気象まで、変えてしまうほどの汚染を進めてしまったのですから。このテンポで何かしても、もう、間に合わないかもしれない。多くの人は、人ごとみたいに心配してないようだから…。未来に希望を語るのが、つらくなる昨今なのです。

ところがです。私は、5年程前に、「えっ！」と思うことに気づきました。それは、東京のゴミ問題です。東京のゴミは、右肩上がりに増え続け、「あと3～4年後には、東京湾の夢の島の埋め立て地は、満杯になる。その後の埋め立て地は、もうない。」という都の清掃局の現場の方の声をたびたび聞いていました。ところが、分別回収が本格化し、分別回収、分別容器の設置が進むにつれ、驚くことが起こったのです。ほとんど、間に合わないかに見えたゴミの増加が減り始めたのです。折れ線グラフは、平成2年の490万トンから、平成14年度は350万トンに下がっています。折れ線グラフは、1988年頃から右肩下がりへと変わっていききました。これは、環境に大げさなことを述べなかつた多くの市民が、実は心の中の宇宙の力を発揮し、一人一人分別の努力を重ねていった結果ではないでしょうか。これは、「ちりも積もれば…」の努力のことですから、選挙の結果より地道な話です。



毎日の生活で出来ることをやっていく。ゴミ問題のみならず、荒川の水が、わずかずつ、テナガエビ・ハゼ・ウナギなど生き物がすめる河にもどってきていること、渡良瀬川遊水池や、茶色い山肌に、緑の祖だを貼り付ける活動で足尾の山々に生き物が戻ってきていることなど、人々の努力が自然を回復させている例が増えています。

「人間と自然がバランスよく共存共生できる社会を目指して」出来ることをみんなで、一つずつ積み重ねていくことの重みをかみしめたい。そのために、子どもたちや、若者をはじめすべての年代の方々と、地域の環境観察・自然遊び・環境学習を進め、環境改善のピオトープづくりなどを進めていくために、このNPO法人S.O.E.を立ち上げました。この便りが、思いを同じくする人々の交流・学び・行動へのスタートの場になればうれしいです。

一人一人の中に、宇宙があり、その宇宙が日本中、世界中の宇宙と共鳴して地球へつながっていくことを願って…。

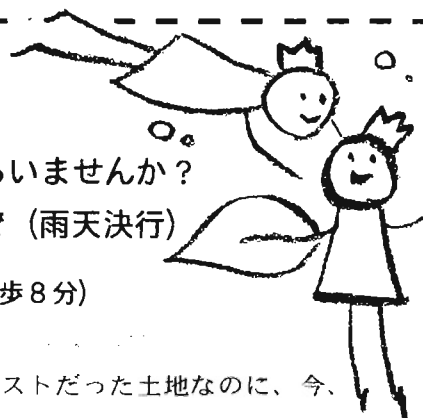
S.O.E. ナチュラル活動のご案内 4月

春の野原の誘い 第一グラウンド

ビオトープ管理士会関東支部のみなさんといっしょに
板橋区立蓮根第二小学校のビオトープを見学させてもらいませんか？

日時 4月16日(土) 午前10時から12時ころまで(雨天決行)

場所 板橋区立蓮根第二小学校 校庭
(板橋区蓮根3-15-5 都営地下鉄三田線 蓮根駅下車 徒歩8分)



一緒に観察しませんか。今年は、すごい。見てください。ダストだった土地なのに、今、ヒキカエルの卵が、所狭しと産み付けられています。

この変化の答えは、ビオトープを創ったからです。その前に、なぜ、カエルが、はじめに
来たかですって？そのとおり。不思議な都会の謎です。私が思うには、答えを出すために、
このビオトープを見てください。セリが芽生えています。一番の春の野草の使者はセリです。
寒い2月下旬からセリは芽を出し、寒さに震えて体をちぢ込ませている私たちをけなげに励
ましてくれました。水を浄化する役目を果たしていると最近知りました。ビオトープがこの
地域の自然の姿を教えてくれているのに、驚いています。しかし、ヒキカエルの卵の量、オ
タマジャクシ1億匹をこえるでしょう。その後どうなると思いますか。空から見ている生き
ものがあるんです……。

日本女子大学川崎校舎生田山の観察とワークショップ

日本女子大学川崎校舎のある生田山には、自然のまま残る雑木林があります。
そこで、そこにどんな植物が植生し、どんな生き物が生息しているか、
学生たちと共に調べてみたいと思います。
それは、生田山の地球の姿だからです。
一緒に参加して感動の発見をしてみませんか。

S.O.E. エコツアーのご案内 8月

紺碧の沖縄ー美ら海・美ら村ー日本500名選 歩きたい道に選ばれた備瀬へ
3泊4日のエコツアーにいきませんか

現地のウミンチュ、オーバーとの温かい交流、カヌーのり、シュノーケリング、珊
瑚の観察、環境活動など魅力満載旅行

昨年、S.O.E. が立ち上がる寸前に、第1回沖縄エコツアー5泊6日の旅を行いま
した。

それはそれは、充実した企画でした。

参加者みなさんが、満足して帰ってきました。その時の企画をご紹介します。

会員のかたはもちろん、会員でなくてもどなたでも参加していただけます。
お問い合わせは… メール info@NPO-SOE.JP 電話 03-3960-6052

春の野原の誘い 第二グラウンド

荒川に春の天使ーいきものを見つけに行こうー
クロベンケイ・クロメダカ・オタマジャクシ・カエル・ザリガニ
虫・野鳥・そして春の草々など。



日時 4月23日(土)10時~14時

集合場所 荒川土手集合ー蓮根駅前通りをまっすぐ行って、突き当たりの土手の
上に集合、荒川自然生態園周辺で観察、遊び

持ち物 履きやすい靴、長靴ある人は長靴、長袖シャツ、長袖ズボン、寒い日
はセーター、ジャンパー、帽子、タオル、ちり紙、ビニール袋2~3つ、
手さげ水そう、虫かご(なくても、びにーる袋で代用)、魚取り小さ
な網、(ある人は)お弁当(おにぎり程度)、飲み水500ml程度、天候
によりカッパか傘の用意。おやつ各自。

参加者 大人・子ども(小学生まで)は保護者や近隣の大人の付き添いで。中
学生以上は個人参加可。

参加費 大人500円、(保険代 一人100円含む) 子ども100円

天候注意 朝8時の天候による、雨天なら中止。

日時 ~~4月28日(木)~~ 5月7日(土) 午後2時~4時
対象 関心のある方
講師 環境関係者
持ち物 双眼鏡お持ちの方、メモ帳程度、ご自分の必要なもの
集合場所 日本女子大学生田校舎正門前図書館前
交通 新宿発 小田急線急行
向丘遊園乗り換え 2つ目読売ランド前下車徒歩15分

会員の方へ、地元密着型の手作りエコツアーのご案内です。
今年度の詳細は企画中です。昨年実施したエコツアーの内容をご紹介します。

美ら沖縄 人・文化・大自然に巡り会う

昨年の日程

8月30日(月) 羽田発12時30 夕方備瀬着 旧盆エーサー踊り見学、一緒に踊る

8月31日(火) 知念区長表敬訪問・公民館ボランティア活動・
備瀬自然観察シュノーケリング

9月1日(水) 海辺・里道のゴミ拾い、本部博物館見学、講義

9月2日(木) 羽地内海カヌー体験・新里地区自然観察(専門指導員同行)

9月3日(金) 沖縄料理をつくって食べて・国立美ら水族館見学

9月4日(土) 今帰仁城史跡見学・那覇公設市場買い物・帰京

S.O.E. ナチュラル活動の予定

生き物がとつても元気になる季節です。S.O.E.の活動も盛りだくさん。

7月

● 夏休み特別企画

● 巡視船『あらかわ』に乗って ● 夏の荒川探検をしよう

- 巡視船あらかわに乗って、夏の荒川の自然観察です。
- 普段は見れない、荒川の自然。
- 荒川をくだり、東京湾へ、墨田川から再び荒川へ約4時間の船旅。
- 川から見る自然のすがたはどうなっているんだろう。

● 日時 2005年7月28日(木) 12時集合・17時解散

● 集合解散 荒川知水資料館 amoa(アモア) 前 広場

● 費用 無料(資料・保険代として500円を予定)

● 参加資格 非会員でもOK 子ども大歓迎

● 参加受付 6月1日より、35名限定 先着順受付

● 注意 巡視船を利用するため、荒川の巡視業務の予定次第で上記日程に変更が生じる場合もあります。変更の場合は、この誌上でお知らせします。

「詳細は次号でお知らせします」

5月

● 開設5年目を迎えた学校ビオトープの生き物観察 ● 植物の名前調べなど

● 日時 2005年5月21日(土) 10時～12時

● 場所 板橋区立蓮根第二小学校ビオトープ『いきものひろば』

6月

● 彩湖(笹目橋のすぐ上流)周辺の自然観察

● 日時 2005年6月11日(土)

● 場所 道満グリーンパーク(予定)

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063)

phone: 03-3960-6052

ホームページ WWW.NPO-SOE.JP

fax: 03-3960-6053

お問合せメール info@NPO-SOE.JP